



今回は、海洋プラスチック汚染に関するセミナーの報告です。

◇ **海洋プラスチック汚染 ～内陸の岐阜県は何をなすべきか～**

日時：平成31年1月13日(日) 13:30～15:00

参加者：70名 講師：井田徹治氏 科学ジャーナリスト・共同通信社編集委員

<講師紹介> 東京大学文学部社会学科卒業。共同通信社入社。福島支局、つくば通信局、1991年科学部、2001年から2004年、ワシントン支局特派員。環境と開発の問題を長く取材、気候変動に関する政府間パネル総会、ワシントン条約締約国会議、環境・開発サミット（ヨハネスブルク）、国際捕鯨委員会総会など多くの国際会議も取材している。

関高生による課題研究発表（2年3組チーム）に続き、科学ジャーナリストの井田徹治氏による海洋プラスチック汚染問題の講演をうかがいました。この問題が「待ったなし」の状態にあることを、世界各地の具体的な事例をひきつつ説明していただきました。この問題に対し、私たちがどう取り組むべきかに関しては、「木材や竹など地域の資源を使って使い捨てプラスチックの代替品を作れば、地域の活性化と両立できる」との興味深いお話がありました。

今回の講演会には、岐阜高校、岐阜農林高校、恵那高校から多くの高校生の参加があり、後半の座談会にも参加していただきました。井田氏からは、「高校生の意見や質問のレベルの高さに驚いた」「一緒に、脱使い捨てプラスチックムーブメントに取り組んでいきたい」とのコメントが寄せられました。関高校では学校の枠を超えたイベントを今後も企画していきたいと考えています。

